

ラフカディオ・ハーン (小泉八雲) と熊本

理事長室から

竹屋 元裕



NHKの朝ドラ「ばけばけ」が面白い。ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）の妻セツをモデルにしたドラマだが、2月には熊本編が放送されるそうだ。

ハーンは明治24年11月から明治27年10月まで3年近くを熊本で暮らし、第五高等学校の教師として英語とラテン語を教えていた。「ばけばけ」に因んで、熊本でもハーンに関する講演会がたびたび開催され、私もひ孫の小泉凡氏（小泉八雲記念館館長、島根県立大学短期大学部名誉教授）や熊本大学永青文庫研究センターの今村直樹准教授の講演を聞く機会があり、いくつもの興味あるエピソードを知ることができた。当時のお抱え外国人教師は高給取りで、ハーンも月給200円（現在の価値で500万円程度）を貰っていた。当時の五高校長であった嘉納治五郎が年俸2,000円だったので、校長よりも高い給料を貰っていたことになる。にもかかわらずハーンは熊本のことを「一番つまらない都市」と感じていた。明治10年の西南戦争で熊本城とともに市街地の多くが焼け野原となり、ハーンが好む古い神社仏閣はほとんど残っていなかった。さらに、

数年後に勃発する日清戦争を前にして軍都として急速に近代化が進む熊本になじめなかった。一方で、長男が熊本で生まれ、愛妻せつとその家族との暮らしがあり、松江よりも西洋料理の食材の入手が容易であったことから家庭的には充実した生活を送っていた様である。執筆にも精をだして、代表作である「知られぬ日本の面影」は熊本で書き上げられ、「夏の日の夢」*や「停車場にて」*など熊本を舞台にした名作も生まれている（*どちらもおすすめの短編で、青空文庫で読むことができる）。いよいよ2月16日から始まる熊本編がどのように描かれるのか、興味津々である。



熊本大学黒髪キャンパスにある小泉八雲のレリーフ 後方は五高記念館（著者撮影）

若者の競技力向上へ熊本スポーツ-ラボ

バド、バスケット選手の身体能力測定

熊本県内のアスリートを対象とした「熊本スポーツプロジェクト-for Youth-」のうち2025年度第3、4回の「熊本スポーツ-ラボ」を1月10日（土）、17日（土）、KMバイオロジクスアリーナで開催しました。熊本スポーツ-ラボは県内アスリートの身体能力を可視化し、長所と短所を伝えることで、競技力向上や障害予防に貢献することを目的としています。

10日の第3回には、熊本中央高校バドミントン部の部員12人が参加。教員3人（理学療法学専攻 兼 健康・スポーツ教育研究センター：本田講師・宮崎助教・嶋村助教）、同専攻の3年生6人、大学院生1人が測定を行いました。

一方、熊本ヴォルターズユース（U-15）の選手26人が参加した17日の第4回では、本学教員5人（久保下准教授・本田講師・枝尾講師・宮崎助教・嶋村助教）、同専攻の3年生12人、大学院生2人および桜十字病院の理学療法士4人が測定にあたりました。

（健康・スポーツ教育研究センター 中村祐貴）

健康・スポーツ教育研究センター



写真上は、太ももの筋肉の状態を超音波装置で測定する教員と学生。同下は、選手にフィードバックを行う学生



日程の合間を見つけて訪れた
故宮博物院

講演を行った台湾大学附属病
院国際会議場の入り口



十数年ぶりの再訪 学会で講演

若い医師の熱意に感じた誠実さ

昨年末に4泊5日の台湾訪問の機会を得た。目的は2つ、台北市での学術講演と、台南市および高雄市の医療系大学の表敬訪問である。その顛末を、台湾訪問記として3回に分けてお届けする。

私にとって台湾訪問は2回目だが、前は十数年も前で記憶も定かではなく、今回が初めてと変わらない。事前に、様々な情報収集（航空機、空港、国内移動やチケット購入方法、ご当地情報等）やホテル予約、訪問先との連絡、台湾ドル調達などを行い、久しぶりの海外一人旅の準備に、若い頃のワクワク感を思い出す。

12月19日夕方、熊本発、台北桃園空港行きの中華航空に搭乗。自宅から熊本空港まで車で15分、約2時間のフライトで桃園に到着、あまりの近さに海外旅行と言うにはあっけない。これもTSMC熊本進出の恩恵か。翌20日は国立台湾大学医学部附属病院 (National Taiwan University Hospital)

内の国際会議場において開催された中華民国血液学会主催の2025 Benign Blood Disorder Dayにおいて「Clinical Advances in C5-targeted Therapies and Future Perspectives in Paroxysmal Nocturnal Hemoglobinuria」という演題で講演を行った。

いくつか質問も受けて、やれやれという思いで会場を出たところで若い医師に急に呼び止められ驚いた。私の話を聞いて、自身の患者の治療について相談したいとのこと。その熱意に医師としての誠実さを感じ、わざわざ台湾まで足を運んだ甲斐があったと思った。観光する時間はほとんど無かったが、定番の故宮博物院と龍山寺のみ駆け足で巡り、ガイドブックのチェックと記念写真だけは忘れずに確保できた。

(副学長、医学検査学科教授)

熱気あふれる `学びの場、

1月26日(月)の営業を終えたレストラン2階からの一枚。普段は学生たちの憩いの場ですが、今の時期は定期試験と国家試験に向けた学びの場所へと変身します。黙々とペンを走らせる学生や、友人にわからない部分を聞いて理解を深める姿が見られ、真冬なのに熱気に包まれていました。体調を崩さないように頑張れ～～！

今週の1枚

インフォメーション

週間行事予定 (2月2日～2月9日)	
2/4 (水)	一般選抜 (一般)
2/6 (金)	就勝ガイダンス (看護学科)
2/9 (月)	修士学位論文公开发表会 (院) 【オンライン】キャリア教育セミナー(看護学科)